
情報番号：教育技法—22
テーマ：マトリックス図法
編著者：IBEX-T

1. マトリックス図法とは

研修技法としては特殊だが、問題解決や QC の研修の中で用いられるのがマトリックス図法である。

QC、TQC 推進のために編み出された技法であるが、「特性要因図」「パレート図」のように枠組みや作成手順が統一化されている技法ではなく、現象と原因、目的と手段、問題点と対策などをマトリックス（タテとヨコの伝達経路）に図示し、その関係の中から問題の急所や着想をつかんでいくため、こう名づけられている。

厳密にいうならば、要因を上下・左右、あるいは立体的に配列し、二次元・三次元的配置の中から、問題の所在（問題のポイント）を発見したり、解決のヒント（着想ポイント）をつかんだり、解決の手順・役割（実施ポイント）などをつかんでいく技法である。

マトリックス技法には、①L 型マトリックス、②T 型マトリックス、③Y 型マトリックス、④X 型マトリックス、⑤C 型（立体）マトリックスの形態がある。

要因の数、次元のとり方によって使い分けができるが、X 型や C 型は難易度が高いため、問題解決で一般的に活用されているのは、L 型と T 型のマトリックス図法である。